

# 西別院だより



平成3年度親鸞聖人報恩講は10月12日～16日です。みんなでお参りしましょう。

講師 河崎昇陽師 網走郡女満別町・広徳寺住職

## 報 恩 講

本願寺小樽別院

|        |        |          |          |        |       |     |
|--------|--------|----------|----------|--------|-------|-----|
| 10月14日 | 9時     | 双葉女子学園参拝 | 9月7・8日   | 13時30分 | 若竹説教所 | 報恩講 |
| 10月15日 | 10時30分 | 三園々児参拝   | 9月27日    | 12時    | 別院仏婦  | 報恩講 |
| 10月13日 | 19時    | 御伝鈔上巻拝読  | 9月28・29日 | 13時30分 | 緑説教所  | 報恩講 |
| 10月15日 | 19時    | 御伝鈔下巻拝読  | 10月5・6日  | 13時30分 | 新光説教所 | 報恩講 |
| 10月16日 | 10時    | 満日中法要    | 11月9・10日 | 13時    | 奥沢説教所 | 報恩講 |
| 〃      | 12時    | おとぎ      |          |        |       |     |

# 人間の特異性

輪番 山田博道



人間の顔を持つ者は 人間としての心を持つ！

私の心にケモノ心の湧くときも、私は当前だと云わぬばかりに、平気で人間の顔をして暮らしています。いま経典を繙いてみますと、お釈迦さまは

人は多思の故に 他趣と異なる

多思の故に 他趣と異なる

と、多思と多思の二点を挙げて、その特異性とされています。私たちは畜生といえ、すぐ犬・猫・馬・牛などを

思い浮かべますが、経典には

「懺愧なきものは名づけて人となさず、名づけて畜生とす。恩を知らざるものを畜生とす。恩を知るものをもつて人となすなり」と。七高僧の龍樹菩薩は、『大智度論』に

「恩を知るは大悲の本 恩を知らざる者は畜生よりも甚し」と説かれ、また古歌には

「はし鷹の寒き霜夜のぬくめ鳥 恩を知らぬは人にこそあれ」と詠われています。この句は、鷹は鳥にしては珍しく冷える鳥なので、霜が降るような寒い夜には、普段は餌食にしている小鳥を捕って来て、羽根の下に抱いてその温かみで一夜を過ごし、翌朝その小鳥を食べることなく逃がしてやり、しかも逃げた方向にはその日は餌を取りに行かないという、鳥でさえ一夜の恩

義を忘れないことを詠ったものです。鳥には反哺の孝ありと云われています。それに比べて現代の人間社会は鷹にも劣る忘恩の世界ではないでしょうか。

自らの生きざまの中に、懺愧の世界と、無量の恩恵の中に生かされている自分を知ることができなのが人間で、ただ食べて寝て、損か得かの物差しで我欲を満たすことに追い廻され、追われついでに生き、人間に生まれた意義も喜びも、心の帰るべき故郷をも考えることもなく、二度と通れぬたった一度の生涯を終える生き方は、どう見ても畜生の生き方としか思えないのです。仏法は、人になれと、人になる道と同時に、心の帰依処 生きる心の依りどころ・死して帰するところを教えて下さっています。

お蔭さまで今年の報恩講にも遇うことのできた身の上を喜びつつ、静かにその教に耳を傾けてみたいものです。

合掌

小樽別院テレフォン法話

電話で聞こう 3分法話

毎日の心のやすらぎを 3分間

TEL 27-1616

24時間いつでもお電話ください

平成三年十月十二日お逮夜より十六日満日中まで

宗祖親鸞聖人報恩講法要案内

| 16日(水)                    | 15日(火)                           | 14日(月)   | 13日(日)  | 12日(土)   | 日             |
|---------------------------|----------------------------------|--|---|--|---------------|
| 10時00分<br>6時30分           | 18時30分<br>13時30分<br>10時30分       | 18時30分<br>13時30分<br>9時00分  | 18時30分<br>13時30分<br>6時30分   | 13時30分<br>6時30分  | 時             |
| ○満日中(正信念仏偈作法)<br>代表焼香・御挨拶 | ○後夜勤行<br>○晨朝(正信偈行譜六首引)<br>和讃五十六億 | ○晨朝(正信偈草譜六首引)<br>引き続き 和讃弥陀成仏<br>○日中(誦経作法・無量寿経)<br>○三圍合同参拝<br>○逮夜(広文類作法)<br>御鈴鈔拝読 | ○晨朝(正信偈行譜六首引)<br>引き続き 和讃弥陀成仏<br>○日中(誦経作法・観無量寿経)<br>○双葉女子学園参拝<br>○逮夜(奉讃大師作法)<br>○初夜(正信偈三首引)<br>祖徳讃仰(30分) | ○初逮夜(大師影供作法)<br>○晨朝(正信偈草譜六首引)<br>引き続き 和讃弥陀成仏<br>○日中(誦経作法・阿弥陀経)<br>○逮夜(奉讃大師作法)<br>○初夜(正信偈三首引)<br>御伝鈔上巻拝読<br>祖徳讃仰(30分) | 法要・行事         |
| 布教一席<br>河崎師               | 布教一席<br>河崎師                      | 布教一席<br>河崎師  | 布教一席<br>河崎師   | 布教一席<br>河崎師  | 布教(本堂)<br>河崎師 |

布教 本願寺布教使 河崎 具 陽 師

網走郡女満別町・広徳寺住職

報恩講は、

なぜつとめる？

土徳という言葉があります。お念仏の信心のあつた土地の風土をさして、そう言われてきました。

そのお念仏の風土を代表するものが、秋から初春にかけての報恩講です。宗祖の親鸞聖人のお徳をしのぶ法会が家々でもつとまり、精進料理による伝統の会食が伝えられてきました。

たとえば、吉野(奈良県)の山村の在家報恩講の献立は、一汁三菜です。

お平の煮物の盛りつけに、ひとつの形があります。ふたをとると、いちばん上にシイタケがのつていて、その下にニンジンとゴボウ、ヤマイモが並び、底に三角形のアブラアゲが敷かれています。

この形に意味があるのです。関東を教化されていた頃の親鸞聖人のお姿なのです。シイタケは笠、ゴボウは杖、アブラアゲは袈裟、ヤマイモは石。聖人が寒夜、路傍の石を枕に寝られたという有名な伝説の、その石です。そしてニンジン、手足のアカギレの血。

晩秋から真冬にかけての念仏の集会のぬくもりのなかで、このようにして「御開山(親鸞聖人)のご苦勞」をしのぶのです。

つい二、三十年前まで、この地方のお惣菜は、ほとんどを自給してきました。だから山の斜面には、色とりどりの野菜畑がならんでいました。

これらの野菜を植えつけると、人々の念頭には報恩講の用意がありました。お斎(会食)に招く客の顔ぶれを思い浮かべながら、種を播いたといえます。秋の報恩講の準備が春からはじまっていたのです。

こうして、親鸞聖人が凍土についた杖(ゴボウ)も、枕にした石(ヤマイモ)もアカギレの血(ニンジン)も、山村の畑の中でゆるゆると育っていききました。

「あんじよう、しちよおくなはつて」  
報恩講のお斎に招かれた客は、お平のふたをあげると、まずそのようにほめる。標準ことばに直すと「よくもまあ、うまい具合にしてくださったって……」と言うところでしょう。このシーズン、招かれた客にとって、言葉は悪いが食べあきるほどの献立です。が、言うほうにわざとらしさはありません。それは、調理の妙をほめているのではなく、ゴボウやニンジンがうまい具合に育って下さって、と言う恵まれていことに對する、感謝の言葉でもあったのです。

●報恩講は、親鸞聖人の「念日(旧曆で十一月二十八日、新曆で一月十六日)につとめられる報恩の講(法会)です。この「念日」のことを「正忌」と呼び、一般の寺院では、本山のご正忌の報恩講にさきがけてつとめられることから、「お取越し」などと呼ばれていま

|  |  |  |   |
|--|--|--|---|
| <p>製造直販の店<br/>仏壇・仏具・お宮・神具<br/><b>片桐仏壇店</b><br/>小樽市入舟4丁目5番入舟大通り<br/>TEL(0134)23-1309代</p> | <p>全葬儀 加 盟 店<br/>全霊協<br/><b>小樽典礼株</b><br/>TEL27-1801<br/>稲穂3-4-1</p> | <p>生花を使って花祭壇<br/><b>札樽葬祭株</b><br/>TEL 34-0444<br/>ワカマツ1-17-3<br/>花の店 <b>カトレア(有)</b><br/>TEL 23-6487<br/>奥沢1-17-3</p> | <p>冠婚葬祭御料理 仕出し 宴会場<br/><b>とも居</b><br/>小樽市花園4丁目19番14号<br/>電話(23)2267</p> |
|--|--|--|---|

報恩講

—ホンモノの宗教—

私はまだニセ札をつかまされたことがありませんが、ニセ札は、ホンモノそっくりなので、よほど注意しないと分からないそうです。大体ニセモノの特徴は、ホンモノによく似ているという点にあります。だからホンモノを知らない者は、ニセモノをつかまされるはめになります。

世の中には、色々なニセモノが横行していて、人をだましています。だまされないように常にホンモノに親しんでおく以外に、ニセモノを見破る方法はないようでございます。ニセ札を見抜くのは、やはり銀行員が一番早いそうです。それこそ常にホンモノに親しんで

いるからでしょう。

宗教についてのニセモノとホンモノのけじめを親鸞聖人から教えて頂いたおかげで、ニセモノの宗教の誘惑にかかるともございせん。毎年おつとめ致します報恩講は、親鸞聖人にお礼を申し上げる浄土真宗の大切な法要であります。聖人にお礼を申し上げますが、今申しております宗教を見る眼を与えて頂いたということがございます。

宗教は人生の一部分ではなく全体の問題でありますだけに、ニセモノの宗教を見抜けなかつたら、大切な一生が台なしであります。聖人のおかげでニセモノの宗教にかかわらずに、真実によって人生を送らせて頂くことのできることにしてお礼を申さずにはおれません。さてホンモノの宗教のポイント

は、聖人の仰せには人間の一切のはからいを認めないという点であります。自己中心の欲望はもとより、正邪善悪にとらわれるとご信心の真実性はゆがんでしまいます。真実の教えとは、自分の宗教を正しいと主張することではなく、むしろ自分の正しいとか善いことをしたという心を、くだいて下さるのが真実の教えなのであります。

大阪教区 豊島 学由

お知らせ

同時食 毎月8日  
午後十二時半

道俗みな兄弟なりの道を歩む私たち毎月八日集いて昼食を共にし、み教えに耳を傾けましょう。

ご案内

小樽別院 ☎0134-22-0744

お晨朝 毎朝6時30分

常例布教

毎月7日-11日 巡回布教使  
13日-16日 //

同時食 毎月8日  
12時30分より

仏教青年会

毎月2,3回開催 午後4時より

仏教婦人会 毎月27日正午  
(おとぎあり)

仏教壮年会 毎月6日午後7時

アソカ会 毎月1回  
16日午後2時

日曜学校 毎月最終日曜日、8時30分

カブ・スカウト 毎月第2・4土曜日 午後2時より

ボーイ・スカウト 活動中

おつとめ教室 最終土曜日 3時~4時  
(期間4月~11月迄)

十九日講 別院 19日正午より

各説教所の案内

- 奥沢説教所  
樹心会5日 午後7時より  
唯信講10日正午より
- 若竹説教所  
彰心会7日 午後7時より
- 緑説教所  
無量講9日 午後6時より
- 新光説教所  
法友会13日 午後6時より

1991年 年 回 表 (平成3年度)

|    |    |    |    |    |    |    |    |    |
|----|----|----|----|----|----|----|----|----|
| 50 | 33 | 27 | 23 | 17 | 13 | 7  | 3  | 1  |
| 回忌 | 回忌 | 回忌 | 回忌 | 回忌 | 回忌 | 回忌 | 回忌 | 周忌 |
| 昭  | 昭  | 昭  | 昭  | 昭  | 昭  | 昭  | 平  | 平  |
| 和  | 和  | 和  | 和  | 和  | 和  | 和  | 成  | 成  |
| 17 | 34 | 40 | 44 | 50 | 54 | 60 | 元  | 二  |
| 年  | 年  | 年  | 年  | 年  | 年  | 年  | 年  | 年  |
| 亡  | 亡  | 亡  | 亡  | 亡  | 亡  | 亡  | 亡  | 亡  |

明日を開く  
日曜仏教講座

—親鸞聖人の生き方に学ぶ—

毎月第1・第3日曜日 午前9時30分~10時30分

田畑は雑草によって損われ、人は貪欲によって損われる。 —法句経—